

数 学 科

・ 27年度の「改善プラン」の検証（取り組みにおける成果と課題）

26年度は授業規律の確立、27年度は学習意欲の向上（家庭学習を含む）を改善策として考えた。授業規律は現在も保たれており、生徒は前向きに努力している。しかし、学習意欲の向上という点では、まだまだ改善の余地はある。特に数学を苦手と感じている生徒達に学習意欲を喚起していかなくてはならない。そのためには、授業内での復習の時間の確保、基礎・基本の反復練習が必要である。また、復習を中心とした家庭学習の定着のために、定期的に課題や小テストの実施も必要である。

・ 今回の調査結果

観 点	分 析	課 題
1 数学への 関心・意欲・態度	2学年は目標値と同程度、1・3学年は目標値より5ポイント程度下回る結果となった。	苦手意識をもっている生徒が多く、消極的である。2学年も目標値には届いているが、苦手としている生徒も多く存在する。
2 数学的な 見方・考え方	2学年は目標値と同程度、1・3学年は目標値より5ポイント程度下回る結果となった。	文章の意味を理解したり、文章を読んで立式したりすることを苦手としている生徒が多い。長い文章になるとそれが顕著に表れる。
3 数学的な技能	2学年は目標値より2ポイント上回り、1・3学年は目標値より3ポイント程度下回る結果となった。	基本的な計算問題でのミスが多い。解き方を忘れている、符号の間違いをしている、言葉の意味を忘れていることが考えられる。
4 数量や図形などに ついての知識・理解	2学年は目標値より5ポイント上回り、1・3学年は目標値より5ポイント程度下回る結果となった。	知識の定着に課題がある。家庭で復習をする習慣がないため、授業を聞いて「わかった」と思っている、次の授業で忘れてしまっている。

・ 28年度の授業改善策

（第1学年）

4つの観点全てで目標値を下回った。数学に対して、意欲的に取り組む生徒がいる一方、苦手意識を持っている生徒もおり、学年間での学力に大きな差があるのが現状である。小学生の学習内容に課題が見られる生徒も多いことから、授業を通して、基礎基本の定着を徹底し、ステップ学習や課題等を定期的に課すことで、家庭学習の習慣化を目指す。また、ゆっくり理解を深めていく生徒や学力をさらに伸ばしたい生徒に対しては、個に応じた指導を繰り返し行い、それぞれの学習意欲の向上に向けて働きかけていく。

（第2学年）

すべての観点で、目標値と同程度もしくは上回る結果となった。ただし、男女で大きく学力に差があるのが現状である。苦手意識の高い生徒を中心に、授業における基本的な学習習慣の定着や、家庭学習の習慣化を繰り返し呼びかけていく。また、小学生での学習内容に課題が見られる生徒には別途対応し、学力の底上げを目指していく。

（第3学年）

4つの観点全てで目標値を下回り、昨年度の3学年より10ポイント程度下回っている。数学を苦手と考えている生徒も多く、学習から逃げている生徒も見受けられる。授業を通して、生徒一人ひとりが達成感を感じることでできる展開・声かけが必要である。また、基本的な問題でのミスも多いので、基礎・基本の定着を目指し、ステップ学習や入試問題を活用していく。